郷土芸能祭出演リスト

第１回（さつま町５周年記念　　於：宮之城運動公園 総合グラウンド）

番号	郷土芸能名	出演団体	説明
1	湯田棒踊り	湯田区 流水小学校 文化財少年団（※）	島津藩政時代より現在まで伝わるといわれ、湯田地区の小学生を中心に継承されています。毎年10月10日の湯田八幡大祭で、青壮年が踊る秋津島舞とともに奉納されてきました。現在は、スポーツの日に合わせて披露されています。 ※令和４年４月、流水小学校、鶴田小学校が再編し、「鶴田小学校」になりました。
2	俵踊り	中津川区 中津川小学校 文化財少年団（※）	中津川地区の北方町集落では昔、お寺の落成式や祭りなどで「勧進相撲」が行われていたそうです。この催し物に寄付されたお金や米俵などを土俵の上に積み上げて、観客に披露した様子を踊りにしたのが由来とされ、昭和44年９月、町の無形民俗文化財に指定されました。中津川地区の小学生を中心に継承され、毎年「金吾様踊り」で披露しています。 ※令和６年４月、求名小学校、永野小学校、中津川小学校が再編し、「薩摩小学校」になりました。
3	湯田秋津島舞	湯田区 秋津島舞同好会	島津義弘公の時代にはじまったといわれ、豊作を願って、地区の産土神八幡神社の大祭に奉納するようになりました。一時途絶えたものの、昭和57年に29年ぶりに復活して以来、毎年披露しています。
4	棒踊り	佐志区 あながわ公民会	棒踊りの由来は、戦国時代に遡るといわれています。六尺棒２人、三尺棒２人の４人１組で、４組計16名で踊られています。もともと武術の一種ともいわれ、歌詞が同じことから、各地で踊られている棒踊り、三尺棒踊りと同じと思われます。

郷土芸能祭出演リスト

第１回（さつま町５周年記念　　於：宮之城運動公園 総合グラウンド）

番号	郷土芸能名	出演団体	説明
5	秋津島舞 「アケスメロ」	柏原区 柏原区秋津島舞保存会	島津氏が勢力拡大を図るころ、出陣前には必勝祈願、合戦後は凱旋の祝いとして、長矢旗と共に踊られてきたと伝えられています。幕末以降は、五穀豊穣、祈願感謝の秋祭りとして、古紫尾神社、南方神社（諏訪神社）に奉納後、祁答院渋谷良重墓前で踊ったそうです。
6	ひょっとこ踊り	平川区 ひょっとこ踊り保存会	ひょっとこ踊りは、宮崎県北部にある日向市の伝統芸能で、豊年を祝う踊りとして、また、商売繁盛、紅白の縁起をかつぎ、結婚披露宴や新築祝い等で踊られます。 過疎化が進む平川区の活性化に少しでも役に立てばと、平成12年度にひょっとこ踊りを取り入れ、地域のイベント等に出演してきました。
7	兵児踊り	中津川区 尾原友励会	兵児踊りは、蒲生町の若者達が「出水に遊びに行く様子を踊りに取り入れたもの」という説があり、明治中頃、現在の出水市野田町からいくつかの地域を経て、中津川の弓之尾集落に伝わり、尾原集落や他の集落へ伝わったものといわれています。踊る仕草が滑稽で、勇ましくもユーモラスな踊りです。
8	船木東一本矢旗	船木区 船木東公民会	由来については定かではありません。50年程前、町の楠木神社で踊って以降、途絶えましたが、昭和44年に復活し、３年に１度の船木豊年祭で踊られてきました。

郷土芸能祭出演リスト

第１回（さつま町５周年記念　　於：宮之城運動公園 総合グラウンド）

番号	郷土芸能名	出演団体	説明
9	鷹踊り	鶴田区 鶴田大角公民会	鶴田大角の鷹踊りは、旧薩摩町から伝承した踊りですが、本家の踊りとは若干の違いがあります。この踊りは、昔、宮之城の殿様が鷹を使って狩りに出掛けたとき、鷹を手に乗せて、「鷹に餌をやれ」と、合図をすると、奥方が、餌を棒の先につけて、鷹に餌を差し出すときの所作を踊りにしたと伝えられ、餌差し踊りと呼ぶ地域もあります。
10	秋津舞	二渡区 折小野秋津舞 保存会	久しく途絶えていましたが、宮之城町40周年記念（平成７年）事業で鳴物をそろえて、３年毎に二渡南方神社の８月大祭で踊りを奉納してきました。
11	金山踊り	久富木区 角郷女性部	由来は定かではありませんが、唄や道具が類似していることから、時吉の金山踊の流れではないかといわれています。
12	轟原鷹踊り	虎居区 轟原公民会	宮之城島津の殿様が紫尾山麓で鷹狩りをしていた折、餌差し棒の先に餌を付けて鷹にやる仕草を踊りに振付けたことに由来するといわれています。水天神社例祭・霧島神社例祭で踊りを奉納しています。
13	かせばい棒踊り	柏原区 柏原小学校文化財少年団	柏原の棒踊りは、川口集落を中心に、地域の大人たちが踊っていました。柏原小学校では、総合的な学習の時間で郷土学習として取り組み、昭和55年頃から、運動会等の行事で踊られてきました。

郷土芸能祭出演リスト

第１回（さつま町５周年記念　　於：宮之城運動公園 総合グラウンド）

番号	郷土芸能名	出演団体	説明
14	狩踊り	泊野区 宮田狩踊り保存会	泊野区の宮田集落に古くから伝わるもので、内容は、鹿児島の殿様に世継ぎの子が生まれ、お祝いに泊野の猪を望まれたため、庄屋どんが狩人を集めて狩りを行う様子を表現しています。昭和47年５月12日に、町の無形民俗文化財に指定されました。
15	川原女相撲甚句	宮之城屋地区 宮之城屋地公民館	慶長年間、宮之城と川内の間で藩の米を運ぶ川船の往来が始まると、川原の男達は船乗りとして働き、仕事の合間に川岸でよく相撲をとっていたといいます。これが川原相撲の始まりといわれています。近代になると、軍隊に行く青年達を励ますために、「のぼい相撲」とも呼ばれたそうで、これに花を添えようと、川原の女の人がそれぞれの化粧回しを付け、相撲甚句に合わせて土俵の回りで優雅に踊ったのが、川原女相撲甚句の始まりとされています。
16	疱瘡踊り	柊野区 郷土芸能保存会	その昔天然痘が流行し、かかった人々が早く治る様にと願をこめて、お伊勢様に踊りを奉納したと伝えられています。薩摩地方に多く伝承されていますが、柊野では明治の始め頃から踊っていたと伝えられています。顔に疱瘡が出来ているので、紫のオコソで顔を隠し、痛みをこらえて静かにしなやかに踊ります。静かな踊りのため、引き立て役に二人の太鼓が入りますが、これは柊野独自のものです。

郷土芸能祭出演リスト

第１回（さつま町５周年記念　　於：宮之城運動公園 総合グラウンド）

番号	郷土芸能名	出演団体	説明
17	山崎麓アケスメロ	山崎区 山崎麓秋津舞保存会	慶長14年２月、宮路筑後貞宗は島津家久の琉球出陣に加わり、凱旋後山崎に移住しました。その後、毎年８月10日、飯富神社大祭の日に山崎麓の飯富神社境内に於いて、「アケス舞郎」と称する武者踊りを奉納する事を恒例としていました。この踊りは琉球出陣凱旋祝賀の踊りと言い伝えられています。また、豊臣秀吉の朝鮮出兵で長い戦いを終え、無事に帰郷出来たことを感謝し、秋津舞を奉納するようになったという説もあります。
18	種子島踊り	紫尾区 紫尾区芸能保存会	紫尾の種子島踊りは、出水市から伝承したと伝えられ、歌詞や踊りの大部分が出水市のものと同じです。平成11年に出水市の踊りを参考にして、紫尾区をあげて復活しました。
19	鷹踊り	求名区 下手鷹踊保存会	鷹狩りの様子を表現し、祭や殿様の領内見廻りなどの時に踊り、武運長久、領土・領民の安泰を祈ったとされています。鷹踊り、または、鷹刺踊りと呼ばれ、男性がタカ（鷹）という殿様役、女性はエサシ（餌さし）役で、地方（楽屋）と呼ばれる小太鼓・三味線からなり、振りの大きな勇壮な踊りで、昭和36年に県の無形民俗文化財に指定されました。また、求名地区の小学生を中心に指導も続けています。

郷土芸能祭出演リスト

第１回（さつま町５周年記念　　於：宮之城運動公園 総合グラウンド）

番号	郷土芸能名	出演団体	説明
20	金山踊り	時吉区 時吉区郷土芸能保存会	寛永17年から19年にかけて、藩の家老職にあった宮之城島津家第４代当主久通が、藩財政の窮地を救うため金鉱探しに秀でた山伏（技術者）を雇い入れ、穴川沿いから長野・山ヶ野まで金を探させた様子を表現したのがこの踊りだと伝えられています。 右手に錫杖、左手に山刀を持ち、「後ろは山、前は川」の文句を繰り返し唄いながら踊ります。平成17年１月に、町の無形民俗文化財に指定されました。
21	浅山棒踊り	神子区 神子区郷土芸能保存会	浅山棒踊りは、武士たちの士気高揚のために勧めたものと伝えられており、浅山流の棒術を踊りにしたもので、樫の六尺棒を槍に、三尺棒を刀に見立て、４人１組の踊りで勇壮に舞います。力強い打ち合いによる乾いた音や棒を飛び越える所作が見どころです。 毎年、鶴田小学校の運動会で披露するため、児童に指導を行うなど、保存・伝承に努力しています。
22	秋津舞	白男川区 浅井野公民会	島津義弘公の朝鮮への出陣または凱旋を祝って踊ったのが始まりで、農民の士気を鼓舞するために奨励されたといいます。アケスとは秋津蜻蛉（ｱｹｽﾄﾝﾎﾞ）につながり、蜻蛉の飛ぶような軽快さと、勇壮活発な勇ましい踊りです。